

渋川市 事業系食品ロス実態調査 結果報告書

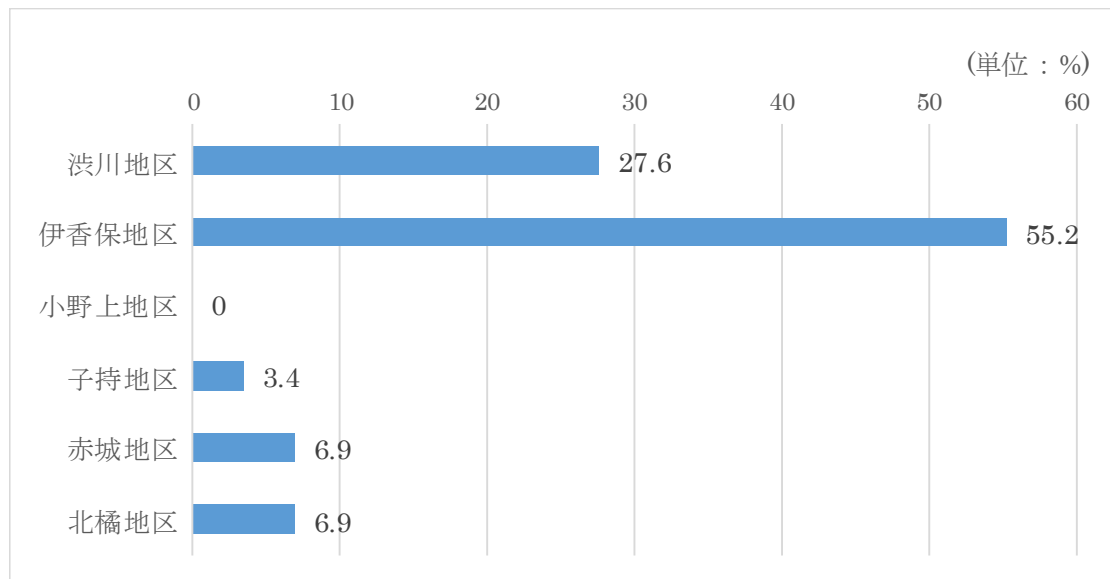
1 調査概要

- 調査目的：食品ロス削減の推進に当たり、事業者の食品ロスに関する実態を把握し、食品ロス削減の効果的な施策の立案に活用するため、令和7（2025）年度に事業系食品ロス実態調査を実施しました。
- 調査内容：食品ロス削減の取組状況等に関するアンケート
- 調査対象：市内の伊香保温泉旅館協同組合に所属する事業者、渋川市認定農業者法人、しぶかわフードラブ協力店
- 調査時期：令和7年9月16日（火）～9月30日（火）
- 調査方法：郵送により調査票を送付し、FAXまたはオンラインにより回答
- 回答率：26.1％（111事業所のうち29事業所回答）

2 実態調査の結果（事業者対象：有効回答数：29者）

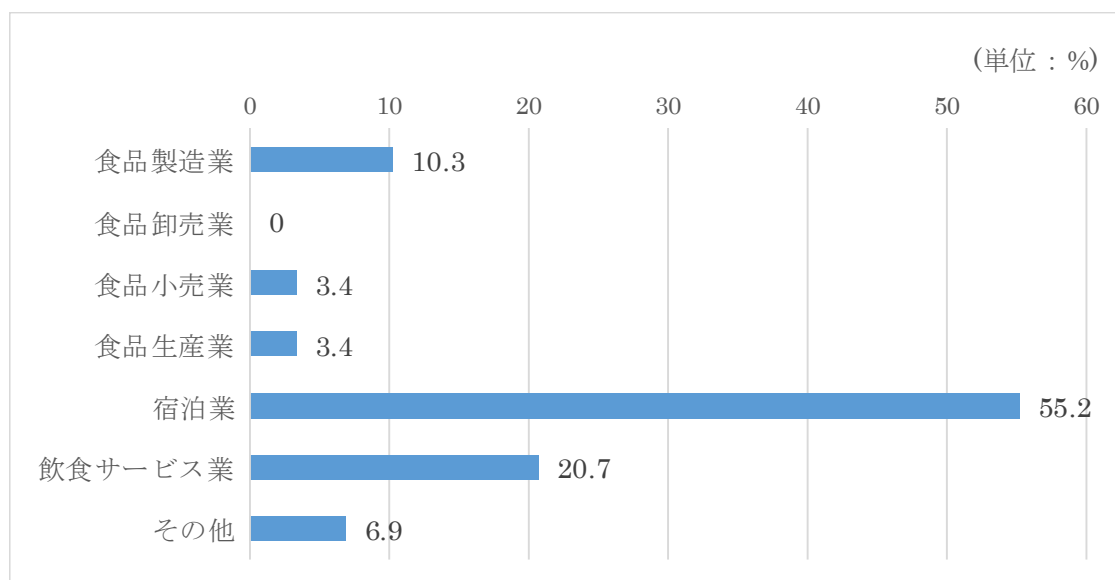
（1）事業所の所在地区

今回の実態調査における事業者の所在地区は、次のとおりとなっています。



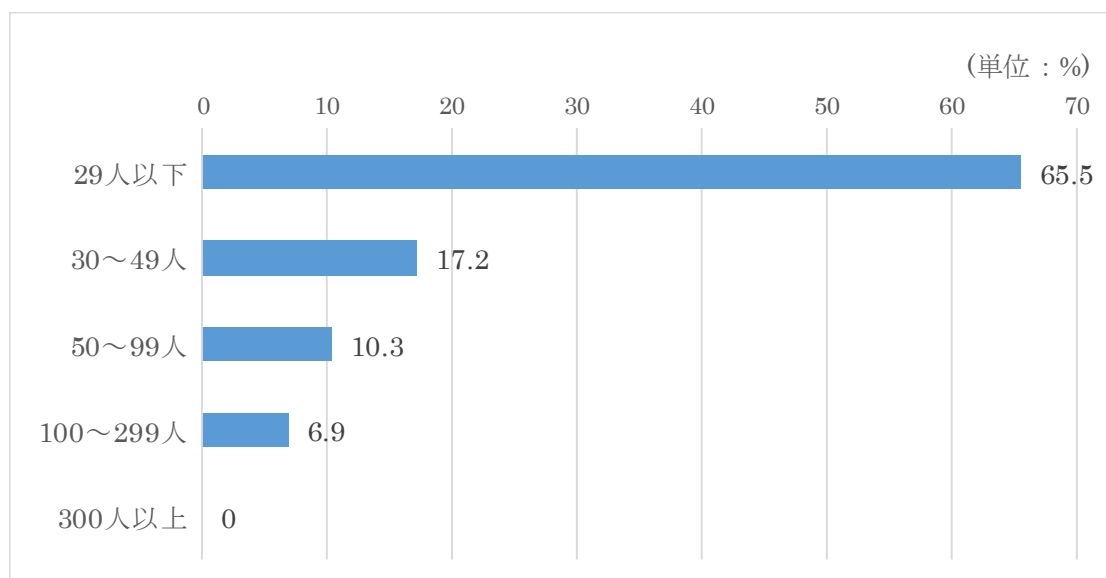
(2) 事業所の主たる業種

今回の実態調査における事業者の主たる業種は、次のとおりとなっています。



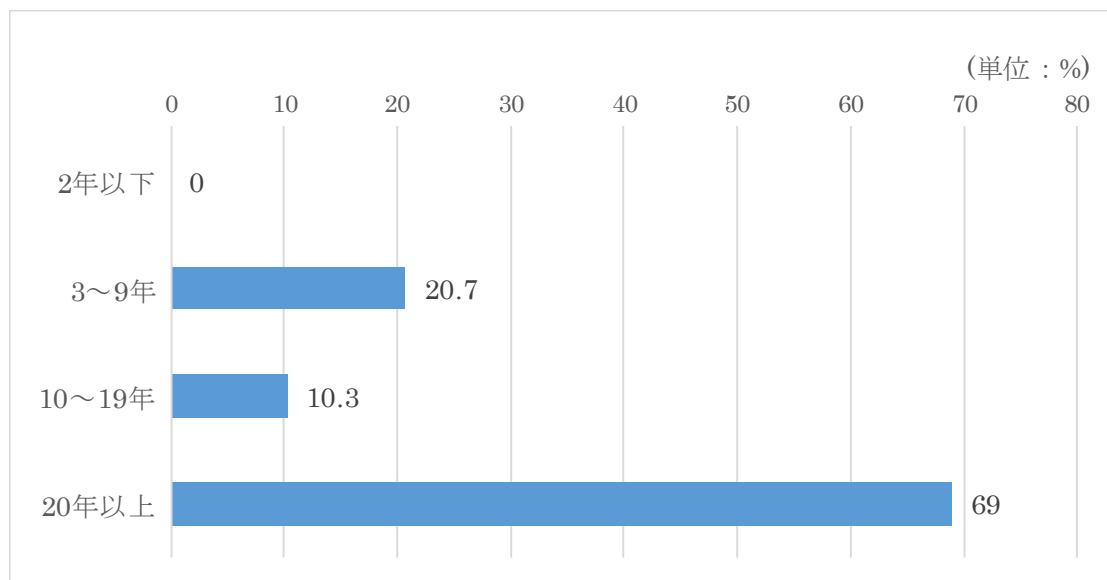
(3) 事業所の就業者数

今回の実態調査における事業者の就業者数は、次のとおりとなっています。



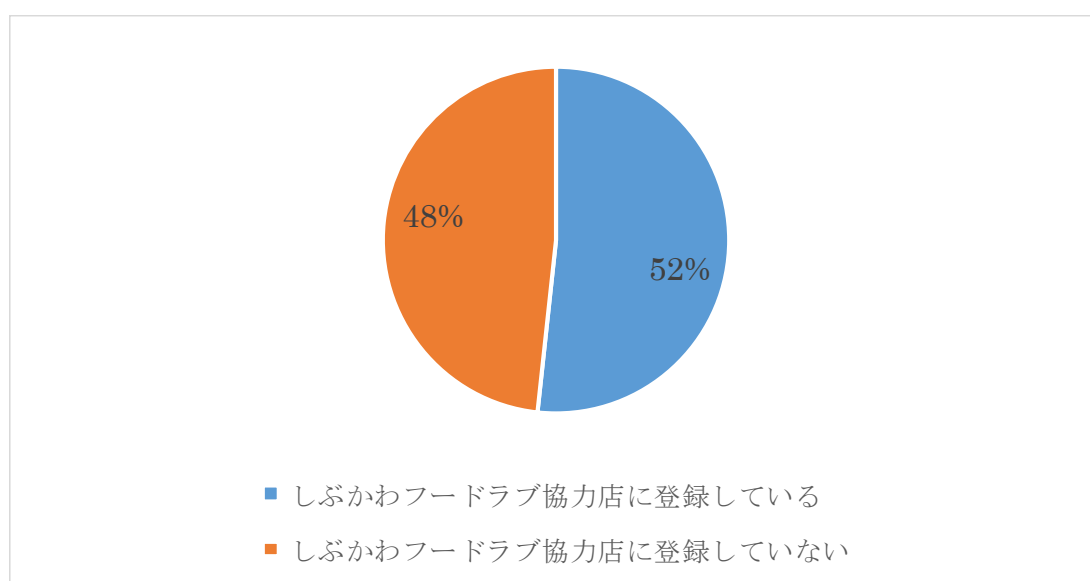
(4) 事業所の営業年数

今回の実態調査における事業者の営業年数は、次のとおりとなっています。



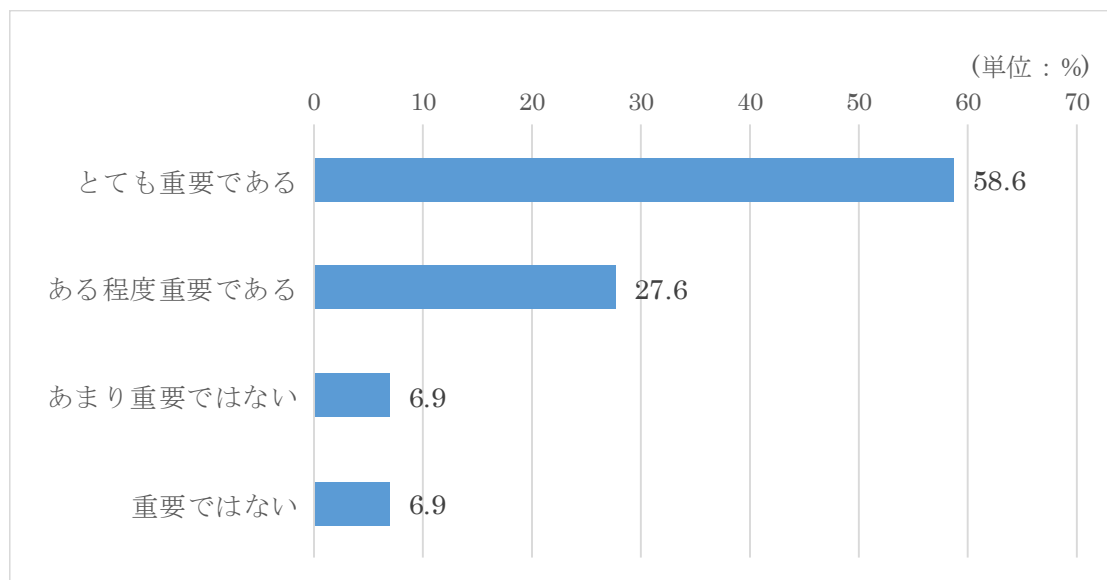
(5) しぶかわフードラブ協力店の登録について

しぶかわフードラブ協力店の登録状況は、次のとおりとなっています。



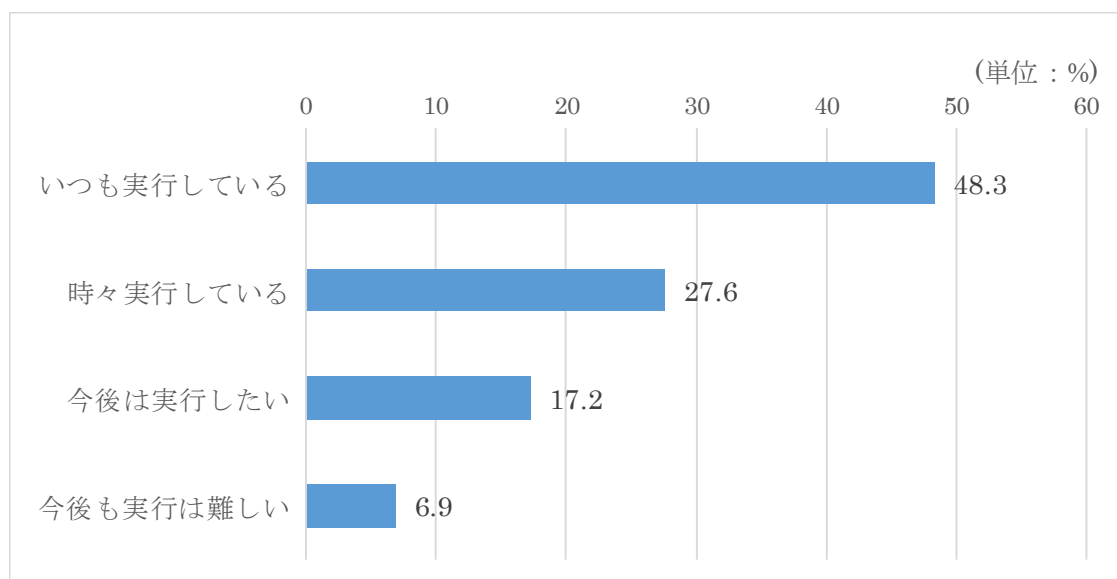
(6) 食品ロス削減の重要度について

「とても重要である」「ある程度重要である」を合わせると 86.2%となり、重要度が高いことが分かります。

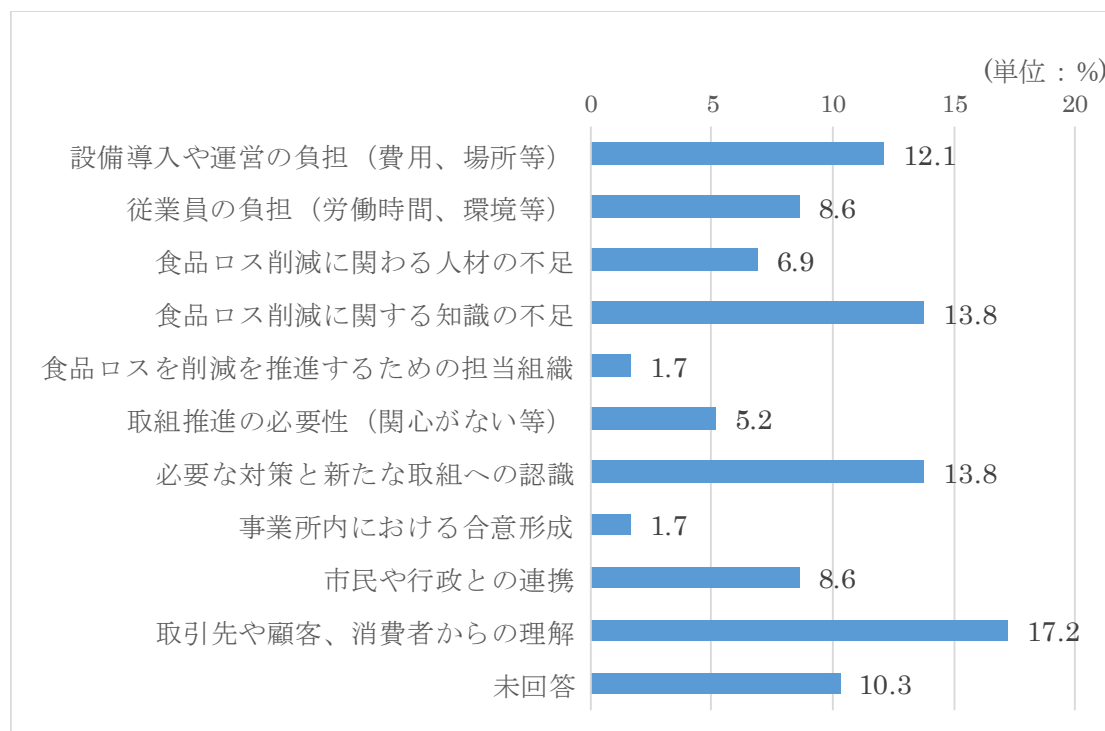


(7) 食品ロス削減の取組状況について

食品ロス削減への取組状況については次のとおりで、取り組んでいる状況が分かります。

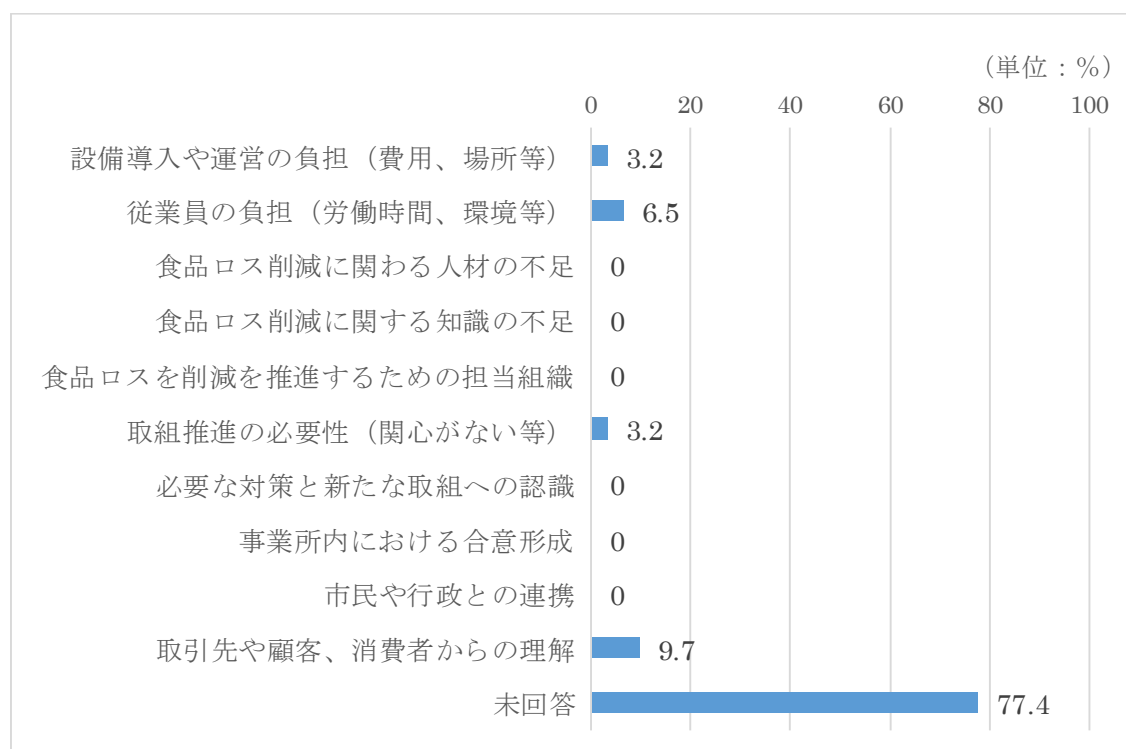


(8) 今後の食品ロス削減に関する取組に関して、「いつも実行している」、「時々実行している」、「今後は実行したい」と回答した事業所の課題について全体では、「取引先や顧客、消費者からの理解」が最も高く、次いで「食品ロス削減に関する知識の不足」、「必要な対策と新たな取組への認識」となっています。



(9) 今後の食品ロス削減に関する取組に関して、「今後も実行は難しい」と回答した事業所の課題について

「取引先や顧客、消費者からの理解」が最も高く、次いで「従業員の負担（労働時間、環境等）」となっています。



(10) 事業所の今後の食品ロス削減に関する取組に関して、渋川市から補助の必要性について

主な意見は次のとおりとなります。

- ・食品ロス削減についてあまり良くわかっていないので今後勉強していこうと思う。
- ・補助金があればありがたい。
- ・渋川市の食品ロスに対する補助金制度があれば教えてください。渋川市の農家で規格外の野菜は、廃棄しているのか教えていただきたい。廃棄するのであれば、使える野菜は使いたい。
- ・各自が必要性を感じて取り組むべきものだと思うので、今のところ補助の必要性は感じていない。
- ・包材（パック等）への補助金、支援
- ・渋川市の職員に余りそうな時は残業食として安く購入してもらいたいです。
- ・生ゴミの再利用が可能か考えて欲しい。
- ・フードパック購入やそれに携わる人件費の補助金等があると助かります。

渋川市の食品ロス削減に対して、意見・提案

主な意見は次のとおりとなります。

- ・野菜のロスが出てもどうして良いのかわからずに捨ててしまう。
- ・衛生管理上残ったものをお客様にお持ち帰りいただくのは難しく、他の宿泊業がどのように対策しているのかご教授ください。
- ・農家側の意見。野菜を大量に畑で破棄することが少なくなく、食品ロス削減への取組に共感を持っていない。消費者が必要以上に買わない使わない食べ残さないと言う行動は、消費の低迷に結びつきその数何万、百万と増えるほど農家につけが周り畑で捨てることになるのです。食料が乏しい国の政策なら理解できるが日本において食品ロスが本当に必要だろうか？私は貧しい発想だと感じている。